



舟の橋から木の橋へ そして、………今

— 長良橋の変遷 —

自転車でシロホン橋を渡る時は、縦に板が張ってある軌道の間を通った。「岐阜の町はもうすぐだ」と、心が高まった日々……
誰からも親しまれてきた長良橋の歴史を探ってみよう。



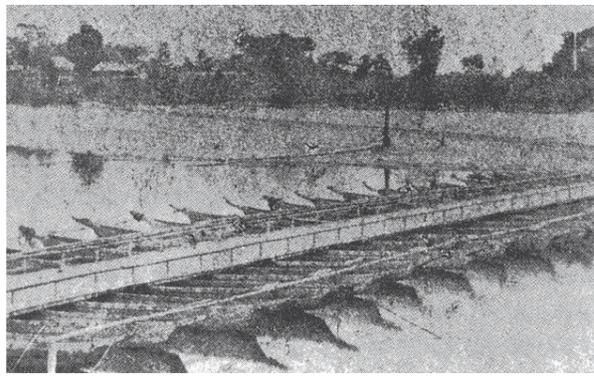
現在の長良橋

最初に架けられた橋・明七橋
江戸時代、長良川は荷物を運ぶ大切な水路として多くの舟が行き来し、長良川以北の人々は渡し舟に乗って岐阜町に用を足しに行っていました。



最初の橋・明七橋

その長良橋に初めて橋が架けられたのは1874（明治七）年のこと。明七橋と名づけられました。南側半分は木橋でしたが、北側は水の流れが強く深いので、舟を十艘余り並べその上に板を渡した舟橋でした。



明治7年の明七橋(舟橋)

この橋を渡るには、人が4厘、馬が9厘、人力車は1銭4厘かかりましたが、舟に乗らずにいつでも行き来できると喜ばれました。しかし、大水の度に橋が壊されたり舟が流されたりしていました。

二度にわたる木橋の架け替え

1884（明治十七）年、明七橋は、長さが285m、幅3.8m、電柱程の太い木を組み合わせて、南北を完全に繋ぐ木橋に架け替えられました。長良橋梁社という会社を作ったので、通行料が必要でした。河渡橋、尻毛橋、忠節橋もこの頃できました。1891（明治二十四）年十月二



濃尾震災で壊れた長良橋



明治34年に架け直された橋

十八日午前六時三十七分、本巣郡根尾村を震源地として濃尾大地震が起きました。

岐阜測候所の地震計の針が振り切れ、地震の後の火災で岐阜駅から伊奈波神社付近まで一面焼け野原となるような大地震で、長良橋も大きく崩れてしまいました。

1901（明治三十四）年には、県が3万円程かけて、新しく木橋が架け直されました。この長良橋の通行料は無料で、人々はいつでも安全に行き来できるようになりました。



大正4年にできた鉄橋

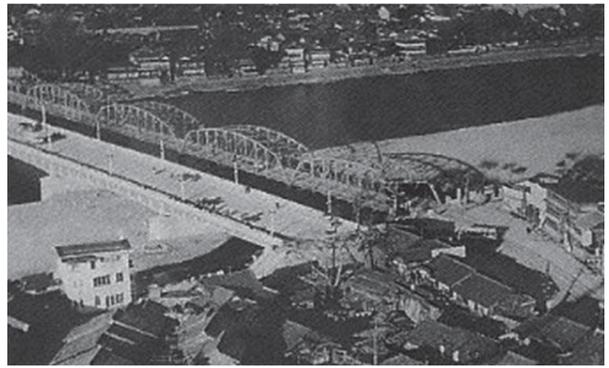
鉄橋となった長良橋

1915（大正四）年、長良橋は鉄橋に架け替えられました。長良橋駅から長良北町駅まで橋の上を電車が繋ぎ、岐阜駅から高富まで、電車を乗り換えなしで行けるようになりました。

この頃岐阜には2台しかなかった乗用車が、大正八年には95台までに増え、トラックも9台走るようになり、木材輸送も筏からトラックに変わっていきました。

戦後の長良橋

戦後の交通量は年々増え、長良橋の傷みもひどくなってきました。厚



昭和31年・新旧の長良橋(工事中)



電車が走る旧長良橋。左は新長良橋

い板を張りつめた路面は自動車を通る度に板が跳ね、シロホン橋と呼ばれる、足元を見て歩かないと危険なほどでした。

1954（昭和二十九）年から3年間、総工費四億二千万円をかけて、長良橋はそれまでより少し下流に架け直されました。それが今の長良橋です。洪水に備え橋脚を高くし、堤防を壊さないように水の流れも考えて造られました。電車は複線となり、自動車も左右2車線で走れるようになりました。

ただ道路は旧の長良橋の延長線上にあり、バスも車も長良橋の北で坂を下り、狭い長良北町までの商店街

（昔からの高富街道）を走っています。やがて電車の線路の周りの家が取り壊し拡幅され、長良橋からまっすぐ走れるようになりました。
1960（昭和三十五）年、長良北町から高富までの電車は廃止され、バスが走るようになりました。自動車中心とする流れを押しとどめることができず、1988（昭和六十三）年六月一日、名古屋鉄道の徹明町〜長良北町間の路線も廃止されることとなりました。

○『わたしたちの町・ながら』
（1984年）、『社会科ぎふ』
（1974年）、『わたしたちの岐阜市』、『岐阜県の歴史』（山川出版社）など参考にして、橋村健がこの文章を書きました。

岐阜市歴史博物館ボランティアガイド
代表 後藤 征夫
「お話・岐阜の歴史」
<http://bookgeocities.jp/gifu/ekishi/rekishi.htm>
TEL 058-231-6726